

4) 1 か月あたりの当直回数及び連続当直回数

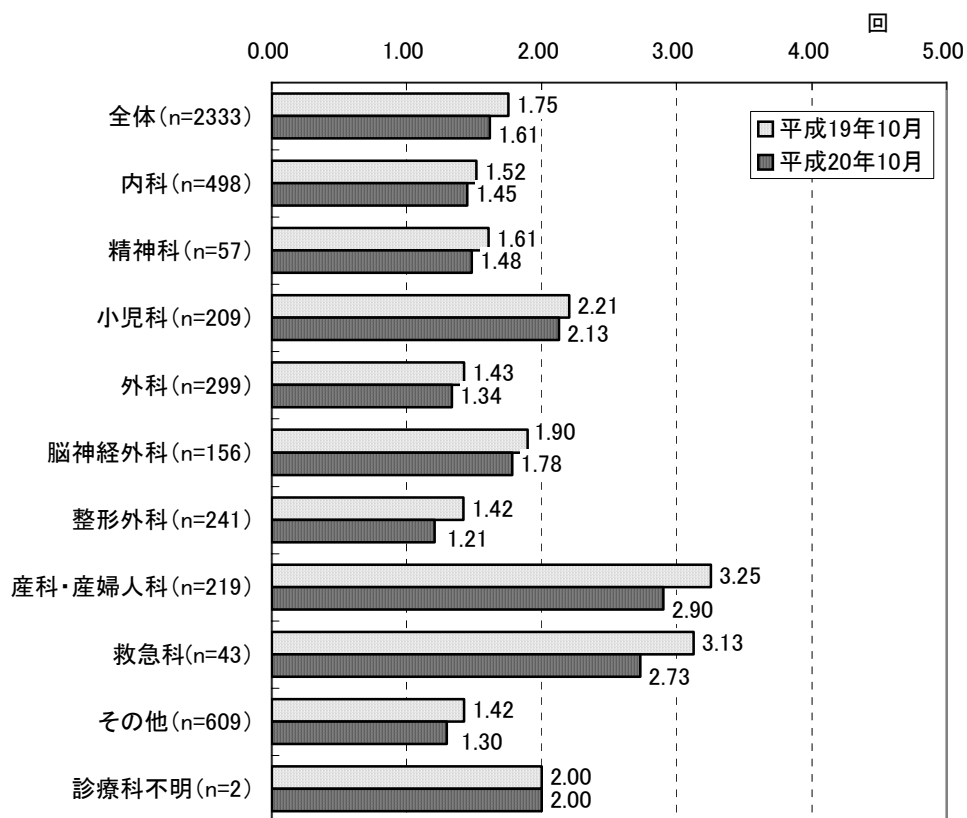
医師責任者における、平成 20 年 10 月 1 か月あたりの当直回数についてみると、「産科・産婦人科」が 2.90 回（標準偏差 3.21、中央値 2.00）と最も多く、次いで「救急科」が 2.73 回（標準偏差 2.95、中央値 2.00）、「小児科」が 2.13 回（標準偏差 2.48、中央値 1.00）、「脳神経外科」が 1.78 回（標準偏差 1.88、中央値 1.00）であった。いずれの診療科においても、平成 19 年 10 月と比較して若干ではあるが少なくなっている。

図表 107 1 か月あたり当直回数（医師責任者）

（単位：回）

		平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
全体	平成 19 年 10 月	1.75	2.20	18.00	0.00	1.00
	平成 20 年 10 月	1.61	2.15	18.00	0.00	1.00
内科	平成 19 年 10 月	1.52	1.71	10.00	0.00	1.00
	平成 20 年 10 月	1.45	1.73	10.00	0.00	1.00
精神科	平成 19 年 10 月	1.61	2.50	12.00	0.00	1.00
	平成 20 年 10 月	1.48	2.50	13.00	0.00	0.50
小児科	平成 19 年 10 月	2.21	2.42	10.00	0.00	2.00
	平成 20 年 10 月	2.13	2.48	12.00	0.00	1.00
外科	平成 19 年 10 月	1.43	1.66	10.00	0.00	1.00
	平成 20 年 10 月	1.34	1.63	10.00	0.00	1.00
脳神経外科	平成 19 年 10 月	1.90	1.95	9.00	0.00	2.00
	平成 20 年 10 月	1.78	1.88	9.00	0.00	1.00
整形外科	平成 19 年 10 月	1.42	1.73	12.00	0.00	1.00
	平成 20 年 10 月	1.21	1.70	13.00	0.00	1.00
産科・産婦人科	平成 19 年 10 月	3.25	3.44	13.00	0.00	2.00
	平成 20 年 10 月	2.90	3.21	13.00	0.00	2.00
救急科	平成 19 年 10 月	3.13	2.98	10.00	0.00	2.00
	平成 20 年 10 月	2.73	2.95	10.00	0.00	2.00
その他	平成 19 年 10 月	1.42	1.97	18.00	0.00	1.00
	平成 20 年 10 月	1.30	1.99	18.00	0.00	0.00
診療科不明	平成 19 年 10 月	2.00	2.83	4.00	0.00	4.00
	平成 20 年 10 月	2.00	2.83	4.00	0.00	4.00

図表 108 1 か月あたり平均当直回数（医師責任者）



(注) 平成 19 年 10 月及び平成 20 年 10 月ともに欠損値のないデータを対象に集計を行った。

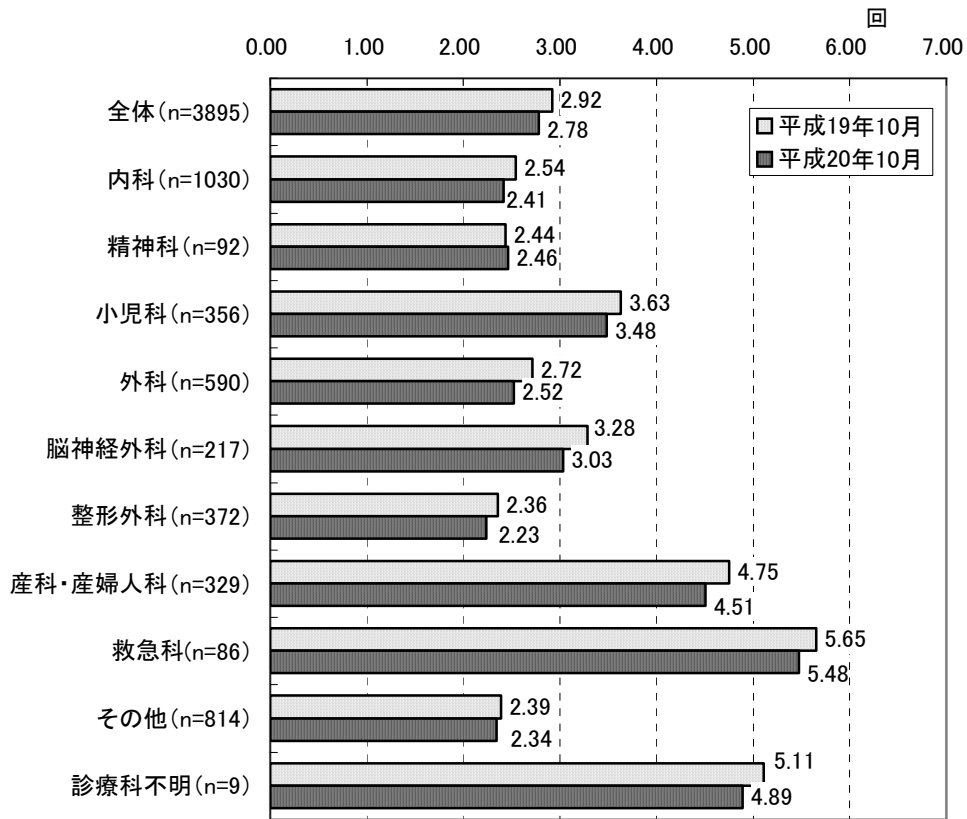
医師における、平成20年10月1か月あたり平均当直回数についてみると、「救急科」が5.48回（標準偏差2.77、中央値6.00）と最も多く、次いで「産科・産婦人科」が4.51回（標準偏差3.26、中央値4.00）、「小児科」が3.48回（標準偏差2.39、中央値3.00）、「脳神経外科」が3.03回（標準偏差2.07回、中央値3.00）であった。「精神科」を除く、いずれの診療科においても、平成19年10月と比較して若干ではあるが少なくなっている。

図表 109 1か月あたり当直回数（医師）

（単位：回）

		平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
全体	平成19年10月	2.92	2.32	18.00	0.00	3.00
	平成20年10月	2.78	2.24	15.00	0.00	2.00
内科	平成19年10月	2.54	1.69	10.00	0.00	2.00
	平成20年10月	2.41	1.63	10.00	0.00	2.00
精神科	平成19年10月	2.44	2.14	10.00	0.00	2.00
	平成20年10月	2.46	2.41	12.00	0.00	2.00
小児科	平成19年10月	3.63	2.36	11.00	0.00	4.00
	平成20年10月	3.48	2.39	11.00	0.00	3.00
外科	平成19年10月	2.72	1.81	12.00	0.00	2.00
	平成20年10月	2.52	1.77	12.00	0.00	2.00
脳神経外科	平成19年10月	3.28	2.47	18.00	0.00	3.00
	平成20年10月	3.03	2.07	10.00	0.00	3.00
整形外科	平成19年10月	2.36	1.72	15.00	0.00	2.00
	平成20年10月	2.23	1.60	8.00	0.00	2.00
産科・産婦人科	平成19年10月	4.75	3.40	15.00	0.00	5.00
	平成20年10月	4.51	3.26	15.00	0.00	4.00
救急科	平成19年10月	5.65	2.73	13.00	0.00	6.00
	平成20年10月	5.48	2.77	13.00	0.00	6.00
その他	平成19年10月	2.39	2.28	15.00	0.00	2.00
	平成20年10月	2.34	2.22	13.00	0.00	2.00
診療科不明	平成19年10月	5.11	3.89	10.00	0.00	4.00
	平成20年10月	4.89	4.01	10.00	0.00	4.00

図表 110 1 か月あたり平均当直回数（医師）



(注) 平成 19 年 10 月及び平成 20 年 10 月ともに欠損値のないデータを対象に集計を行った。

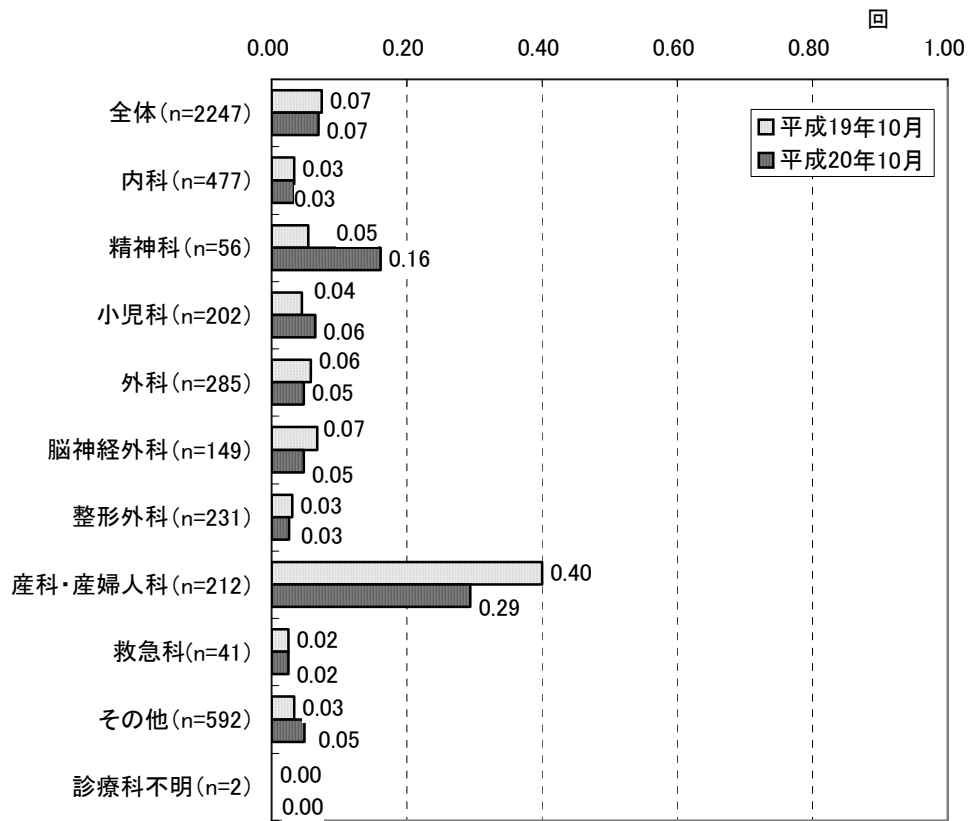
医師責任者における、平成 20 年 10 月 1 か月あたりの連続当直回数の平均についてみると、「産科・産婦人科」が 0.29 回（標準偏差 0.96、中央値 0.00）と最も多く、次いで「精神科」の 0.16 回（標準偏差 0.85、中央値 0.00）であった。

図表 111 1 か月あたり連続当直回数（医師責任者）

（単位：回）

		平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
全体	平成 19 年 10 月	0.07	0.51	15.00	0.00	0.00
	平成 20 年 10 月	0.07	0.43	10.00	0.00	0.00
内科	平成 19 年 10 月	0.03	0.20	2.00	0.00	0.00
	平成 20 年 10 月	0.03	0.19	2.00	0.00	0.00
精神科	平成 19 年 10 月	0.05	0.30	2.00	0.00	0.00
	平成 20 年 10 月	0.16	0.85	6.00	0.00	0.00
小児科	平成 19 年 10 月	0.04	0.44	6.00	0.00	0.00
	平成 20 年 10 月	0.06	0.47	5.00	0.00	0.00
外科	平成 19 年 10 月	0.06	0.28	2.00	0.00	0.00
	平成 20 年 10 月	0.05	0.25	2.00	0.00	0.00
脳神経外科	平成 19 年 10 月	0.07	0.34	3.00	0.00	0.00
	平成 20 年 10 月	0.05	0.24	2.00	0.00	0.00
整形外科	平成 19 年 10 月	0.03	0.20	2.00	0.00	0.00
	平成 20 年 10 月	0.03	0.23	3.00	0.00	0.00
産科・産婦人科	平成 19 年 10 月	0.40	1.40	15.00	0.00	0.00
	平成 20 年 10 月	0.29	0.96	10.00	0.00	0.00
救急科	平成 19 年 10 月	0.02	0.16	1.00	0.00	0.00
	平成 20 年 10 月	0.02	0.16	1.00	0.00	0.00
その他	平成 19 年 10 月	0.03	0.23	3.00	0.00	0.00
	平成 20 年 10 月	0.05	0.33	4.00	0.00	0.00
診療科不明	平成 19 年 10 月	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平成 20 年 10 月	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

図表 112 1 か月あたり連続当直回数の平均（医師責任者）



(注) 平成 19 年 10 月及び平成 20 年 10 月ともに欠損値のないデータを対象に集計を行った。

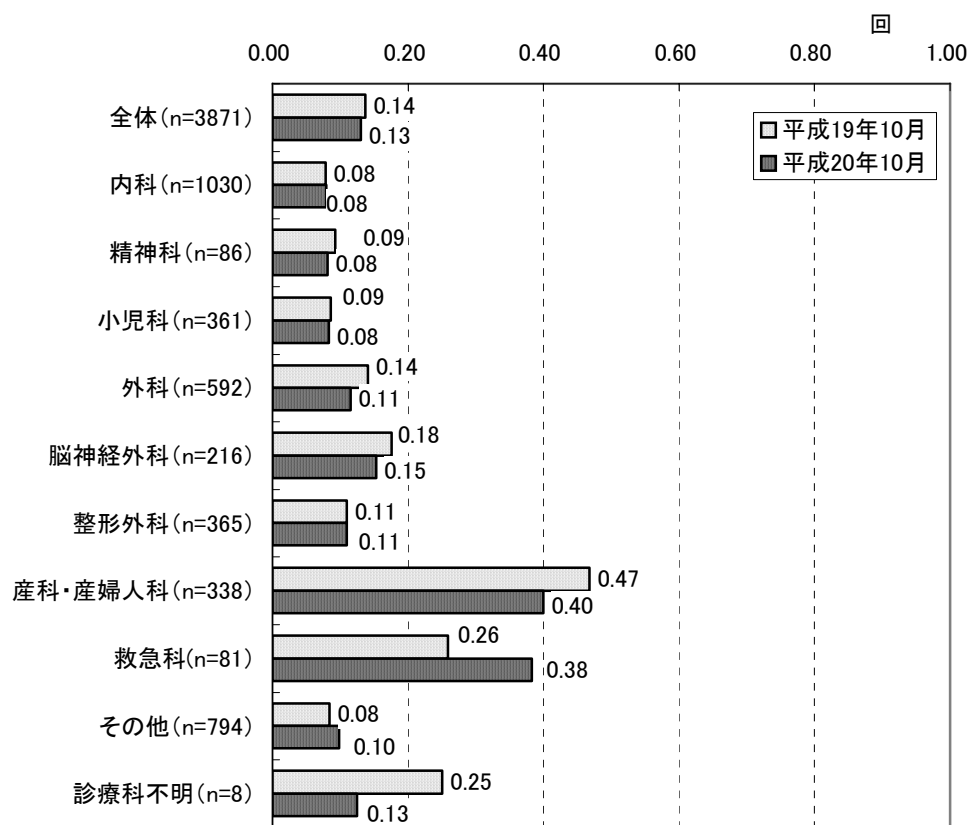
医師における、平成20年10月1か月あたりの連続当直回数の平均についてみると、「産科・産婦人科」が0.40回（標準偏差0.87、中央値0.00）と最も多く、次いで「救急科」の0.38回（標準偏差1.02、中央値0.00）であった。多くの診療科では、平成19年と比較すると少なくなっているが、「救急科」では多くなっている。

図表 113 1か月あたり連続当直回数（医師）

（単位：回）

		平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
全体	平成19年10月	0.14	0.60	15.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.13	0.53	10.00	0.00	0.00
内科	平成19年10月	0.08	0.41	6.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.08	0.37	4.00	0.00	0.00
精神科	平成19年10月	0.09	0.36	2.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.08	0.38	3.00	0.00	0.00
小児科	平成19年10月	0.09	0.35	3.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.08	0.36	3.00	0.00	0.00
外科	平成19年10月	0.14	0.58	6.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.11	0.45	5.00	0.00	0.00
脳神経外科	平成19年10月	0.18	0.67	6.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.15	0.51	3.00	0.00	0.00
整形外科	平成19年10月	0.11	0.52	6.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.11	0.45	4.00	0.00	0.00
産科・産婦人科	平成19年10月	0.47	1.22	15.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.40	0.87	5.00	0.00	0.00
救急科	平成19年10月	0.26	0.67	3.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.38	1.02	5.00	0.00	0.00
その他	平成19年10月	0.08	0.50	8.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.10	0.59	10.00	0.00	0.00
診療科不明	平成19年10月	0.25	0.71	2.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.13	0.35	1.00	0.00	0.00

図表 114 1 か月あたり連続当直回数の平均（医師）

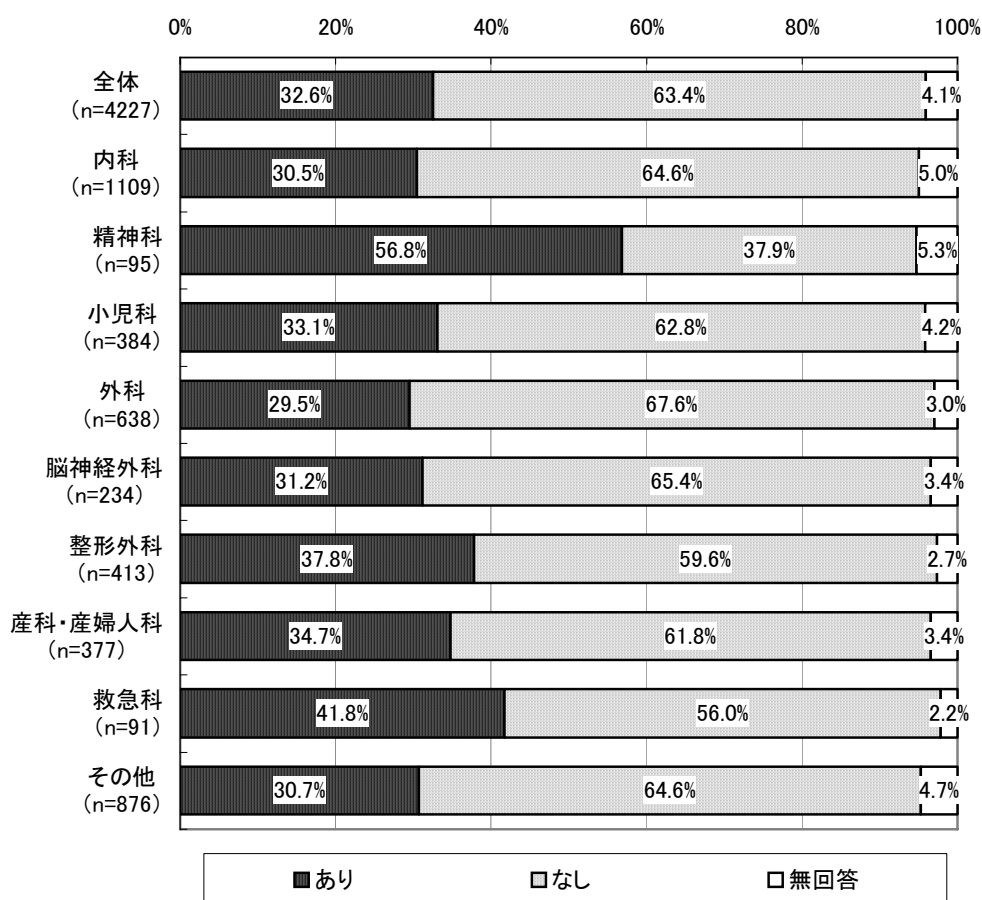


(注) 平成 19 年 10 月及び平成 20 年 10 月ともに欠損値のないデータを対象に集計を行った。

5) 所属病院以外での勤務の有無（医師のみ）

医師における所属病院以外での勤務の有無についてみると、全体では、所属病院以外での勤務が「あり」が32.6%、「なし」が63.4%であった。多くの診療科においてはほぼ同程度の割合であったが、「精神科」および「救急科」では、「あり」（それぞれ56.8%、41.8%）の割合が他の診療科と比較して高い結果となった。

図表 115 所属病院以外での勤務の有無



6) アルバイトの状況（医師のみ）

平成 20 年 10 月の医師におけるアルバイトの状況についてみると、「1 か月あたりの勤務日数」の平均は 2.48 日（標準偏差 2.99、中央値 1.00）、「1 か月の当直回数」の平均は 0.76 回（標準偏差 1.77、中央値 0.00）、「うち連続当直回数」の平均は 0.11 回（標準偏差 0.49、中央値 0.00）、「1 週間の勤務時間」の平均は 8.5 時間（標準偏差 14.3、中央値 4.0）であった。なお、平成 19 年と 20 年で大きな差異はみられなかった。

図表 116 アルバイトの状況

		平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
1 か月あたりの勤務日数（日）	19 年 10 月	2.39	2.96	18.00	0.00	1.00
	20 年 10 月	2.48	2.99	18.00	0.00	1.00
1 か月の当直回数（回）	19 年 10 月	0.74	1.74	15.00	0.00	0.00
	20 年 10 月	0.76	1.77	15.00	0.00	0.00
上記のうち連続当直回数（回）	19 年 10 月	0.11	0.50	7.00	0.00	0.00
	20 年 10 月	0.11	0.49	8.00	0.00	0.00
1 週間の勤務時間（時間）	19 年 10 月	8.2	14.5	113.0	0.0	3.0
	20 年 10 月	8.5	14.3	98.0	0.0	4.0

（注）各項目について欠損値のないデータを対象に集計した。「1 か月あたりの勤務日数」は n=2645、「1 か月あたり当直回数」は n=2612、「上記のうち連続当直回数」は n=2595、「1 週間の勤務時間」は n=2557。

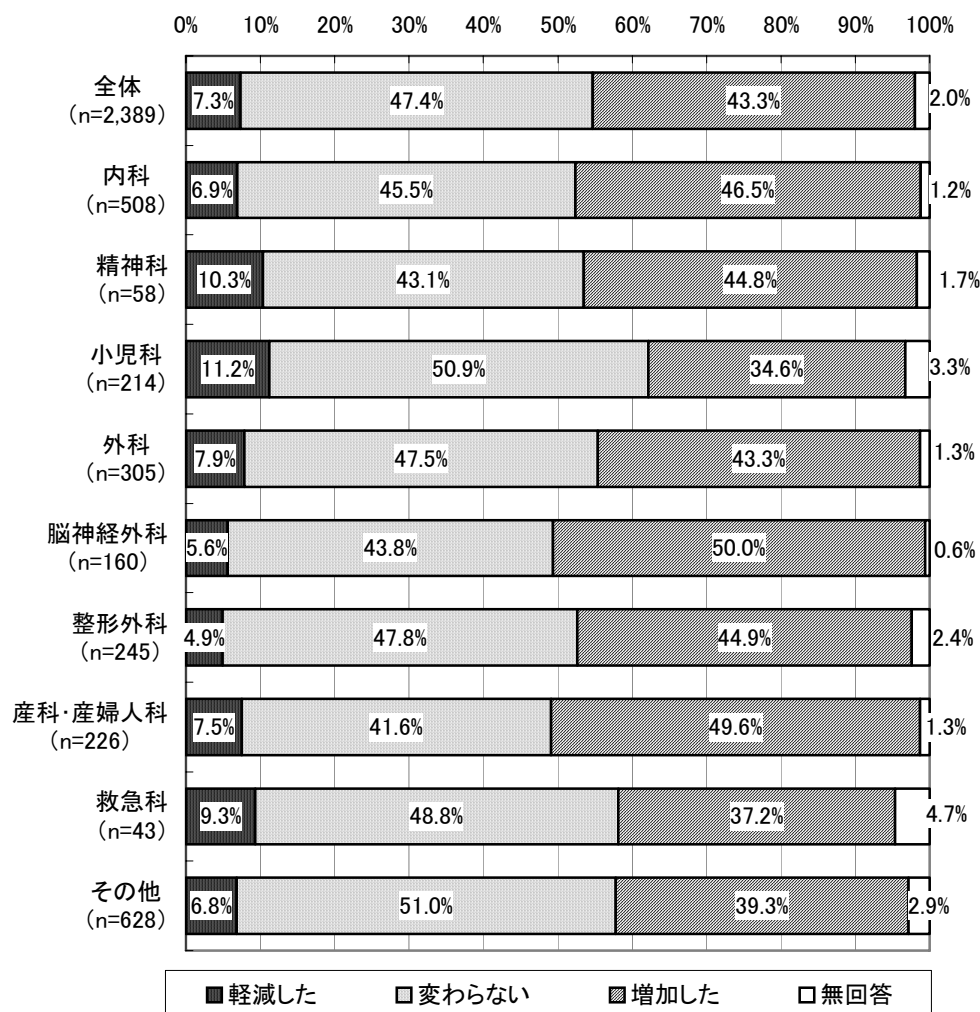
④各診療科における業務負担の変化（平成 20 年 10 月末現在）

：医師責任者に自らが管理する診療科の状況として回答していただいた項目

1) 各診療科における入院診療に係る業務負担の変化

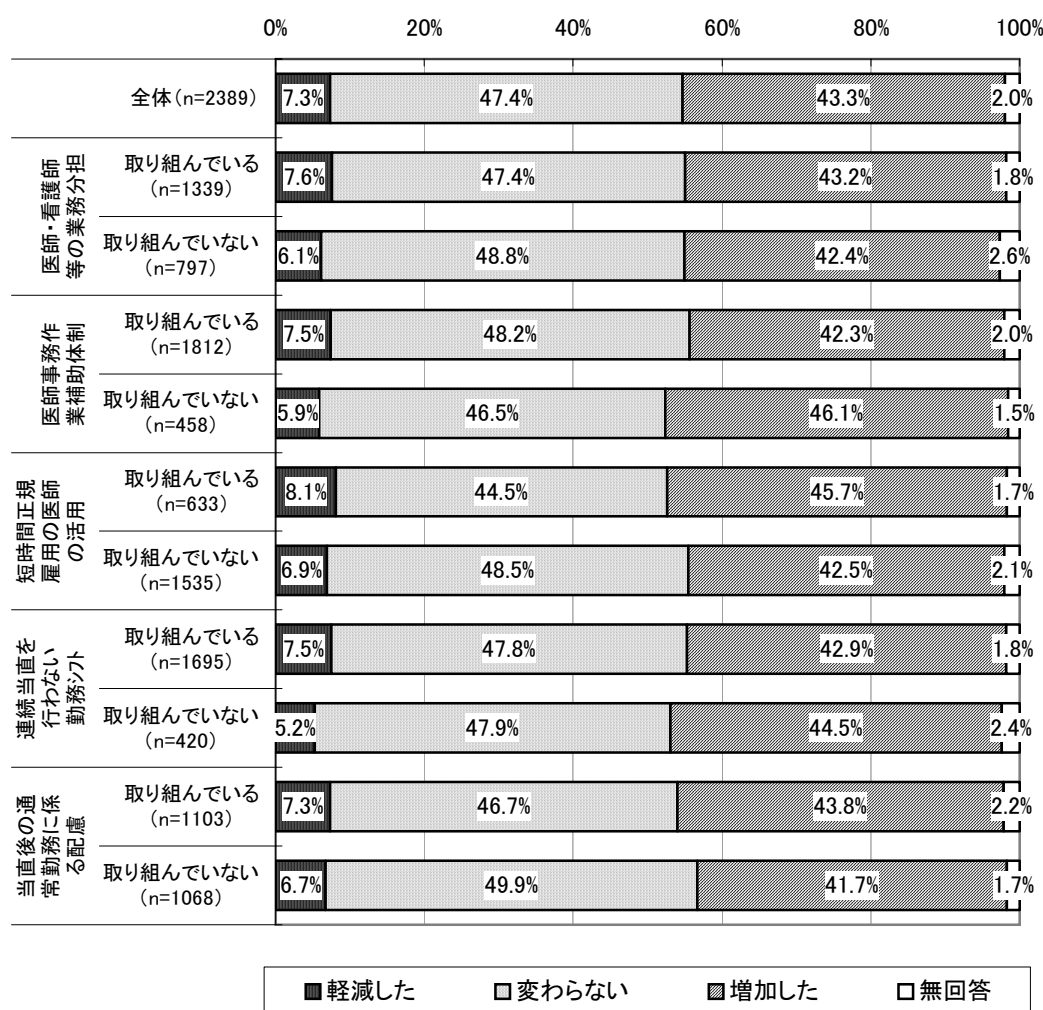
平成 20 年 10 月において、1 年前と比較した、各診療科における入院診療に係る業務負担の変化について医師責任者にたずねたところ、全体では「軽減した」が 7.3%となり、「変わらない」が 47.4%、「増加した」が 43.3%となった。いずれの診療科もほぼ同様の割合であるが、「小児科」、「精神科」、「救急科」では他の診療科と比較して「軽減した」が相対的に若干高く、「増加した」が相対的に低くなっている。

図表 117 各診療科における入院診療に係る業務負担の変化（医師責任者）
1 年前と比較して



平成20年10月において、1年前と比較した、各診療科における入院診療に係る業務負担の変化について、勤務医負担軽減策の取り組み状況別にみると、すべての取り組みで「取り組んでいない」施設よりは「取り組んでいる」施設のほうが「軽減した」の割合がやや高かったものの、大きな差異はみられなかった。いずれも「増加した」が4割強となった。

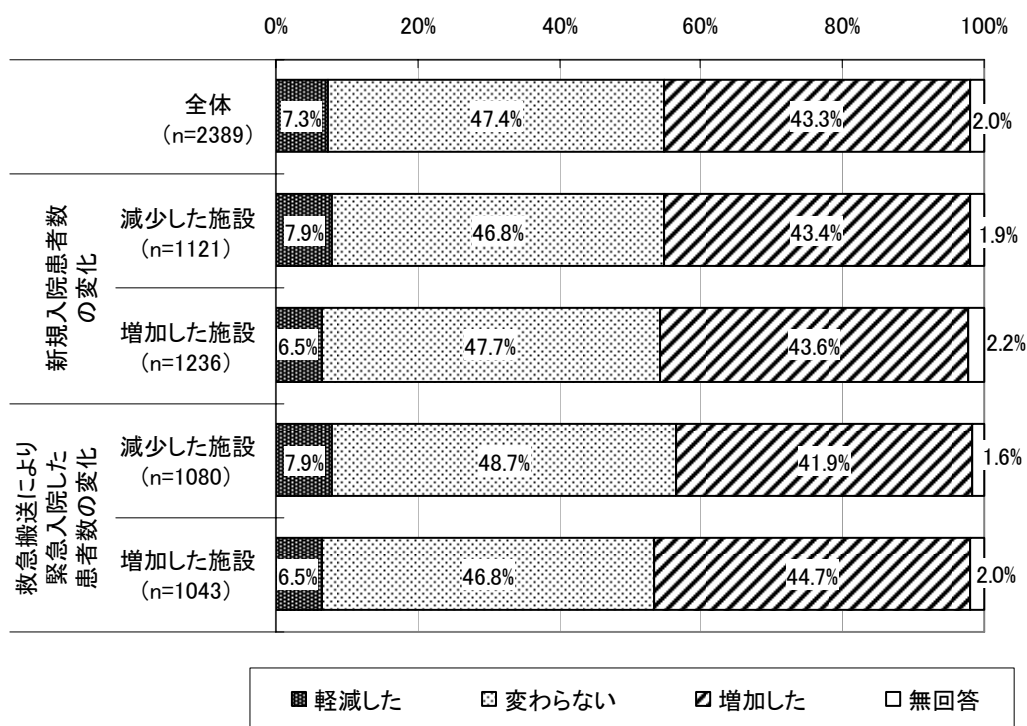
図表 118 各診療科における入院診療に係る業務負担の変化（医師責任者）
1年前と比較して（施設における各勤務医負担軽減策の取り組み状況別）



(注)「取り組んでいない」施設とは、「計画にあるが取り組んでいない」、「計画にない」と回答した施設。

平成 20 年 10 月において、1 年前と比較した各診療科における入院診療に係る業務負担の変化について、入院患者数等の変化別にみると、入院患者数等が減少した施設では増加した施設よりも、「軽減した」が若干高くなっているが、大きな差異はみられなかった。いずれの施設でも「増加した」が 4 割強となった。

図表 119 各診療科における入院診療に係る業務負担の変化（医師責任者）
1 年前と比較して（入院患者数等の変化別）



(注)「減少した施設」「増加した施設」とは、平成 19 年 10 月と比較して平成 20 年 10 月の患者数がそれぞれ減少した、増加した施設。

各診療科における入院診療に係る業務負担が1年前と比較して「増加した」理由としては、医師責任者票の自由記述欄の内容からまとめると、以下のようになった。

図表 120 各診療科における入院診療に係る業務負担が増加した理由（医師責任者）
1年前と比較して（自由記述形式）

<ul style="list-style-type: none">・ 入院患者数の増加・ 医師数（非常勤・研修医含む）の減少・ 医師の能力不足・ 手術・分娩回数の増加・ 事務作業の増加・ 重症患者の増加・ 時間外診療、救急診療の増加・ 電子化による煩雑化・ 高齢患者の増加・ スタッフ不足	／等
--	----

各診療科における入院診療に係る業務負担が1年前と比較して「軽減した」理由としては、医師責任者票の自由記述欄の内容からまとめると、以下のようになった。

図表 121 各診療科における入院診療に係る業務負担が軽減した理由（医師責任者）
1年前と比較して（自由記述形式）

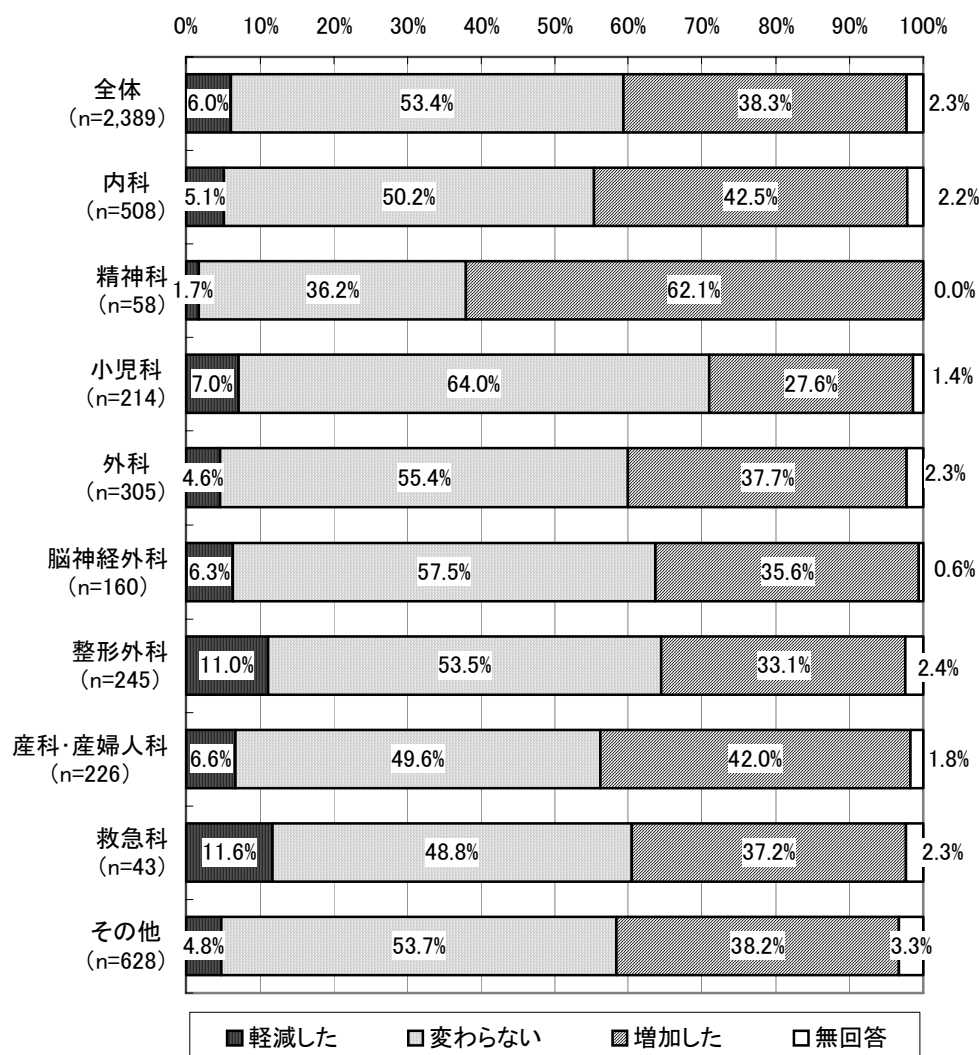
<ul style="list-style-type: none">・ 医師（非常勤・研修医を含む）の増員・ 入院の縮小・廃止・ 手術数の減少・ スタッフの増員・ チーム医療の実施・ 電子化による業務軽減	／等
---	----

2) 各診療科における外来診療に係る業務負担の変化

平成20年10月において、1年前と比較した、各診療科における外来診療に係る業務負担の変化について、医師責任者にたずねたところ、全体では「軽減した」が6.0%、「変わらない」が53.4%、「増加した」が38.3%であった。

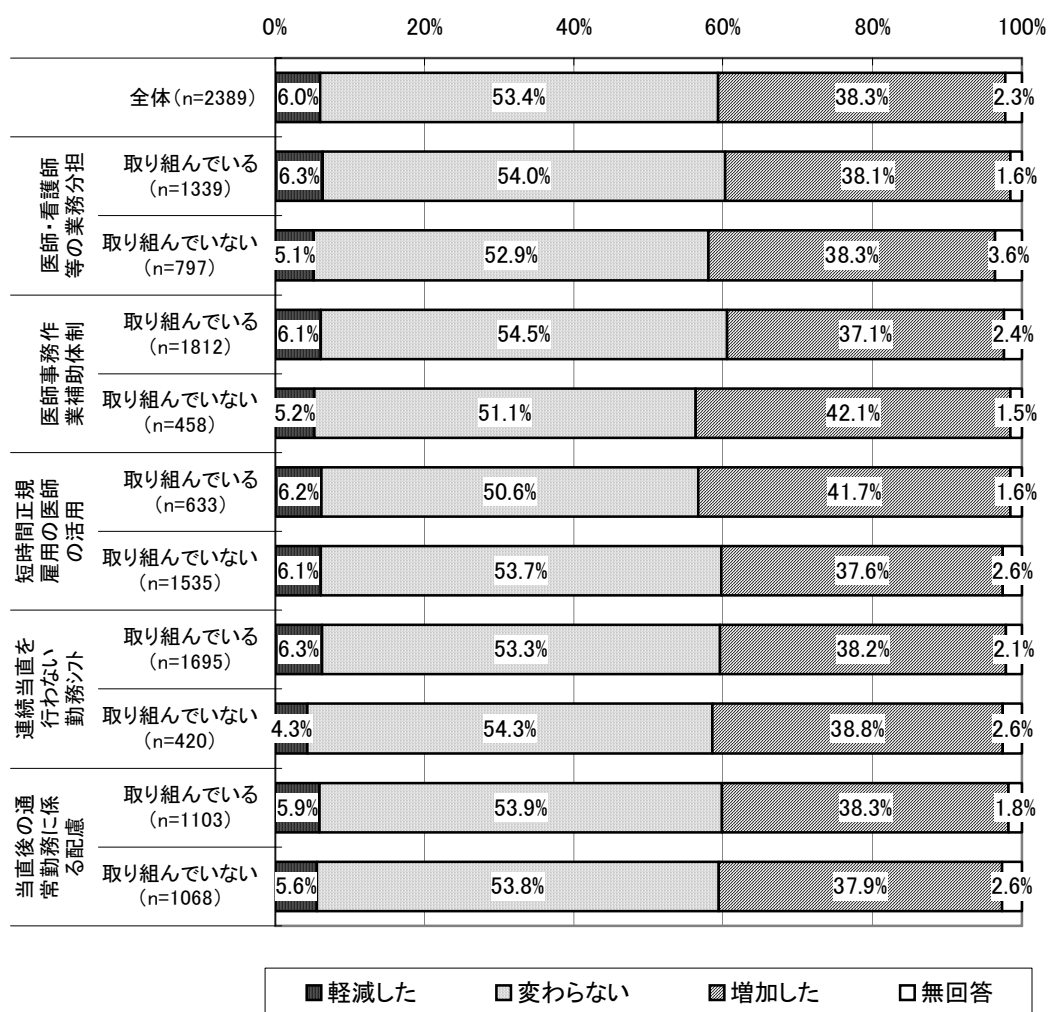
診療科別にみると、「精神科」では「増加した」が62.1%と、他の診療科と比較して突出して高かった。一方、「小児科」、「整形外科」では「増加した」が他の診療科と比較して相対的に低く、「軽減した」が他と比較して相対的に高い結果となった。

図表 122 各診療科における外来診療に係る業務負担の変化（医師責任者）
1年前と比較して



平成20年10月において、1年前と比較した、各診療科における外来診療に係る業務負担の変化について、勤務医負担軽減策の取組み状況別にみると、各項目で「取り組んでいる」施設の方が「取り組んでいない」施設よりも「軽減した」がわずかではあるが高くなっている。しかし、大きな差異はみられず、いずれも「増加した」が4割近くを占めた。

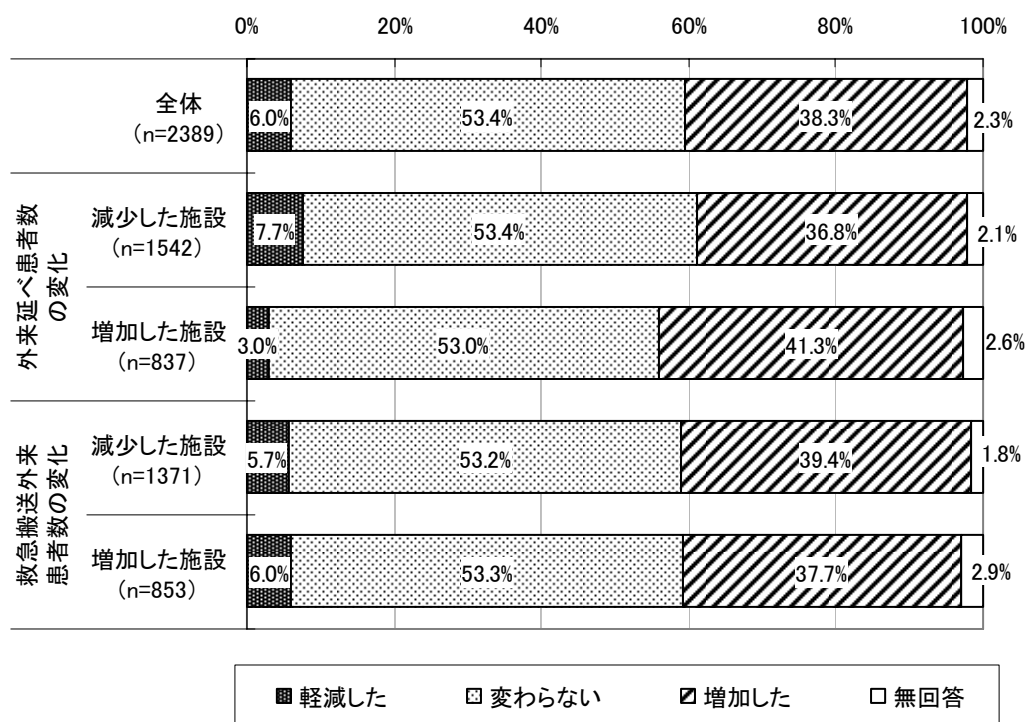
図表 123 各診療科における外来診療に係る業務負担の変化（医師責任者）
1年前と比較して（施設における各勤務医負担軽減策の取組み状況別）



(注) 「取り組んでいない」施設とは、「計画にあるが取り組んでいない」、「計画にない」と回答した施設。

平成 20 年 10 月において、1 年前と比較した、各診療科における外来診療に係る業務負担の変化について、外来患者数等の変化別にみると、外来延べ患者数が減少した施設では、増加した施設と比較して、「軽減した」が高く、「増加した」が低かった。しかしながら、大きな差異はみられず、「変わらない」が 50%を超え、「増加した」が 4 割程度となった。

図表 124 各診療科における外来診療に係る業務負担の変化（医師責任者）
1 年前と比較して（外来患者数等の変化別）



(注) 「減少した施設」「増加した施設」とは、平成 19 年 10 月と比較して平成 20 年 10 月の患者数がそれぞれ減少した、増加した施設。

各診療科における外来診療に係る業務負担が1年前と比較して「増加した」理由としては、医師責任者票の自由記述欄の内容をまとめると、以下のようになった。

図表 125 各診療科における外来診療に係る業務負担が増加した理由（医師責任者）
1年前と比較して（自由記述形式、主なもの）

<ul style="list-style-type: none"> ・患者数の増加 ・医師数（非常勤・研修医含む）の減少 ・医師の能力不足 ・電子化による煩雑化 ・事務作業の増加 ・患者への説明に要する時間の増加 ・外来診療内容の広範化・煩雑化 ・外来担当回数（日数・時間）の増加 ・近隣の病院・診療所の閉鎖・縮小等 ・検査件数の増加 ・重症患者の増加 ・時間外診療、救急診療の増加 ・患者からの要求の増加・煩雑化 ・スタッフ不足 	／等
--	----

各診療科における外来診療に係る業務負担が1年前と比較して「軽減した」理由としては、医師責任者票の自由記述欄の内容をまとめると、以下のようになった。

図表 126 各診療科における外来診療に係る業務負担が軽減した理由（医師責任者）
1年前と比較して（自由記述形式）

<ul style="list-style-type: none"> ・メディカルクラーク等の配置による事務作業の軽減 ・救急診療の制限・縮小 ・医師（非常勤・研修医を含む）の増員 ・休診日の確保、診療時間の短縮 ・患者数の減少 ・投薬通院の減少 ・電子化による業務軽減 ・予約制・紹介制の導入 	／等
---	----

3) 各診療科における夜間・早朝の軽症救急患者数の変化

平成20年4月以降における、各診療科における夜間・早朝の軽症救急患者数の変化について医師責任者にたずねたところ、全体では「減少した」が9.1%、「変わらない」が71.1%、「増加した」が16.0%であった。

診療科別にみると、「小児科」では「減少した」が19.6%、「救急科」では「減少した」が16.3%と他の診療科と比較すると「減少した」の割合が相対的に高かった。一方、「脳神経外科」では「増加した」が24.4%と、他の診療科と比較すると高い結果となった。

図表 127 各診療科における夜間・早朝の軽症救急患者数の変化（医師責任者）
平成20年4月以降

